



竹内緑を支えるルワンダの会

ニュースレター



No.11 (2019年7月)

「神は聖なる宮にいます。
みなしごの父となり やもめの訴えを取り上げてくださる。」
詩篇 68 : 6

いかがお過ごしでしょうか。私共の働きのためにお祈りとご支援に感謝申し上げます。
ルワンダは、現在乾季です。朝はどんより曇って今にも雨が降りそうな気配ですが、正午
前より明るくなり、午後には強い日差しが照っています。私の住んで居るキガリでは、幹線
道路の街路樹にアボガドの樹が植えられ、たわわに実が実っています。

そして我が家の小さな花壇には、コスモスと小菊が咲いています。

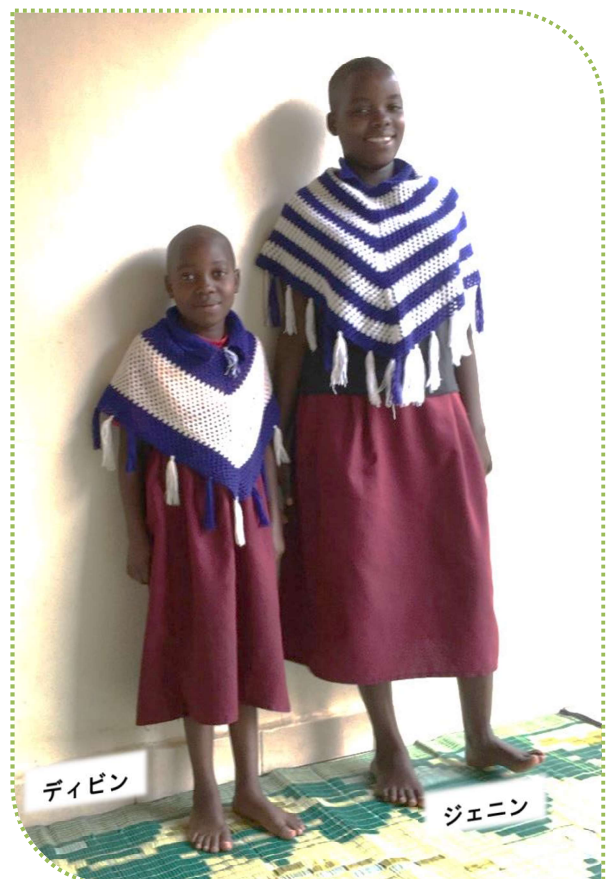


前回のニュースレターでお知らせしたジェニンとディビン姉妹が、養家へ移り住んでから
3か月が過ぎました。二人は、すっかりデボター家の一員として馴染んでいるようです。
ある日、スタッフの一人が姉のジェニンに尋ねまし
た。

スタッフ：「ジェニン、センターへ戻って来た
らどう？」

ジェニン：「いやだ！家には、パパとママが居て、
弟たちが居る。それに、センターでは
(朝食が) イギコマだけだけど、家で
はパンとイギコマがでてくる。センタ
ーには戻らない。」

掲載した写真のように、ジェニン姉妹は、良い表
情をしています。私たちが支援を始める前の写真と
比べると、大きな違いです。精神的に落ち着いてい
るのでしょう。肉体的にも良好で健全な発育が見ら
れます。



ふたりは、定期的にセンターへやって来てカウンセリングを受け、またデボタからも話を聴いています。二人は養家へ行きましたが、現在も ITABWEHO の受益者であることに変わりはありません。カウンセラーによるカウンセリングや家庭訪問など、支援を続けてゆきます。

イギコマ

トウモロコシ、モロコシ、大豆など粉末にして、煮て粥状にしたもの。好みによって砂糖を加える。



5月より、ジェニン姉妹とよく似た背景の人たちの支援を始めました。アニタ 18 歳と妹・12 歳の姉妹です。ふたりの母も売春婦で、2017 年 AIDS で亡くなりました。アニタは、11 歳頃、姉の夫、つまり義兄によってレイプされました。成長したアニタに対し周囲の人たちは、「母と同じ道を歩む・・・」と嘲笑するそうですが、彼女はまじめに生きようとしています。性暴力による心身の傷、極度の貧困による生活苦、親身になって相談できる人のない孤立無援の状態に置かれています。

ITABWEHO の受益者は、リリマ町内に居住することが条件ですが、アニタ姉妹は、同町ではなく遠隔地に居住しています。小学校 6 年生の妹の学期末に当たる 11 月には、二人をセンターへ迎える予定です。それまでの暫定的な処置として、食費の送金と、電話によるカウンセリングを行いつつ見守ってゆきます。子女二人だけで暮らしていますが、守られるよう、お祈りをお願い致します。

2017 年 12 月にセンターへやって来た双子のドルカスとエステルは、今年の 9 月で満 3 歳を迎えます。二人に出会った 2017 年 12 月当時、1 歳 3 か月にも関わらず生後 3 か月余りの体重でしたが、現在まで順調に回復し発育をしています。2017 年当時を知っている関係者たちは、ここまでになった二人を見て一様に驚いています。現在も 3 歳児としては、遅れているものの就学年齢頃には年齢相応になるだろうと問題視していません。🌱



左よりマドリン、エステル、ドルカス



 皆でイギコマを食べる？飲んでいる？ところ

5月、二人の母・マドリンが病院で診察するためキガリへやって来ました。診察後、家族3人が我が家へ立ち寄った時のことです。私が台所へ行くと台所へ、寝室へ行くと寝室へ、ドルカスとエステルが無言のまま、申し合わせたように、私の後をちょこちょこ追って来る様は、滑稽で愛らしく、まるで漫画を見ているようでした。幼子たちは、大人たちを和ませ、楽しませてくれます。

子どもたちの成長は目覚ましく、親になった人たちが味わう喜びの一端を、私も味わわせてもらっていますが、これらは働きを通して与えられる恵みです。うちの子どもたちだけでなく、世界中の子どもたちが心身共に健やかに育って欲しいと願わずにはいられません。どうぞ、続けてお祈りのご支援をよろしくお願い致します。

キガリにて
2019年7月
竹内緑



● N GO の名称は、ルワンダ語で ITABWEHO（イタベホ）、この意味は
「愛すること、世話すること、癒すこと」などであり、
● 字義通り私たちが行っていることです。右図が、このシンボルマークです。
● 私たちの働きの特徴は、以下の通りです。



- 1 心の傷を癒すために心理学（精神）的だけでなく、
全人的なアプローチを行う。
つまり、心理的、肉体的、社会的、霊的な支援を行う。
- 2 心に傷を負った女性だけでなく、
彼女の家族（子どもたち）をも含めて支援を行う。
- 3 必要な人には、シェルターを提供し、我々の保護下で
生活を共にしてケアを行う。
- 4 支援する受益者は、ひとり一人を大切にするため 30 人余りの少人数とする。
以上は、我々独自のものであり、理念とも言える基本的考え方です。

🍀 ご支援・ご協力のお願い

会費及び寄付金のお願い

「竹内緑を支えるルワンダの会」の活動にご賛同くださる方は、是非ご支援とご協力を頂
けますようお願い致します。

年会費（会計年度 1 月 1 日～12 月 31 日）

・会 員 一口 5,000 円

・賛助会員 一口 2,000 円

※会費以外の寄付も随時お受けいたします。

会費・ご寄付の送金方法

○郵便振込

（別紙払込取扱票又は郵便局備付けの払込取扱票をご利用ください。）

郵便振替口座：01330-5-102074

加入者：竹内緑を支えるルワンダの会

○郵貯銀行振込

郵貯銀行口座 記号 15250 番号 3593801



ご連絡・お問い合わせ先：「竹内緑を支えるルワンダの会」事務局

〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷 224-1

日本キリスト教団八頭教会内

電話 0858-72-0075

E-mail: mtakeuchi.rwanda@gmail.com

